

すぎなみ大人塾 ~自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後  
<夜コース>

すぎなみソーシャル・デザイン塾~人・モノ・組織をつなぐ社会起業家になる

07年10月17日(水) 19時より

<第二章> 協働発見ワークショップ2「行政機関との協働から学ぶ」

## 第10回 第二回社会事業も出る創出ワークショップ~テーマの落とし込み

講演:(株)三井物産戦略研究所 新谷大輔さん

1 8月29日に第一回社会事業モデル創出ワークショップにてワークシートを使ってみなさんが考えた課題のアイデアを認識していただきましたが、本日は協働発見ワークショップ2「行政機関との協働から学ぶ」の最終章であるので、1人1人が地域とどのように関わりを持つのかなどの課題抽出の時間となりました、今の段階での考え方を纏めてみることをしたいと考えます。1月、2月に第三回と第四回の社会事業創出モデルワークショップを予定していますが、今から考えを纏めながら徐々に、みなさんの考えを整理するようにして欲しいと思います。

<中間地点での考え方整理の時間>

・課題認識をする

・どのようにしたら解決できるのか

・地域に関わる現状での思い等を整理すること

以上の3つを頭において一つの事業として捉え二枚のシートを活用して整理することを行います。

<活用するシート>

・事業計画~計画の6W3H~ . . .シート1

・すぎなみソーシャル・デザイン塾2007提案シート . . .シート2

このシートはNPO向けに作成したシートです、始めに、事業計画(シート1)の説明ですが、計画の基本はニーズ、プロセス、資源の三つに集約されますので6W/3Hの9つの質問に答えることができるような事業計画を作成する必要があります。

<ニーズの2W/1H>

・WHY? なぜやるのか、必要の無いものをやっても意味がない

・FOR WHOM? 誰のためにやるのか、必要とされるものをやる

・HOW FAR? どこまでやれば解決できるのか、短期中期長期の目標設定が必要になってきます

このうち、誰のためにやるのかが一番重要です、社会的課題を見失って独りよがりですぐ勝手に活動すれば、社会の信用を失います。ボランティアの思いが強すぎるために、自己犠牲、他己犠牲を強いる事例が当たります。

<プロセスの3W / 1H>

- ・WHAT & HOW? 何をどのようにやるのか
- ・WHEN? 何時までにやるのか、期間の設定です
- ・WHERE? どこでやるのか

<資源の1W / 1H>

- ・WHO? 誰がやるのか 自分でやるのか、仲間でやるのか、行政と一緒にやるのか
- ・HOW MUCH? いくらかかるのか、どこから資金を得るのか

9つの質問に答えることができれば、社会的起業家的精神を持ったすぎなみ人が出来上がります。ビジネスをしている方々は事業計画を作成する場合、6W / 3Hの9つの質問に答えながら計画づくりをしていきますが、特にNPOが事業計画をつめる場合、6W / 3Hの9つの質問の意味を見失いなわなないでこの事業計画をどこまで埋めることができるかが大切と考えます。

この事業計画がよく埋まらないという方々は、提案シート2から自分の考え方を埋めてくださればよいかと思えます。

例えば、提案シートですが

- ・関心を持っている分野はどこなのか
- ・具体的な課題はなにか
- ・解決できた後の理想的な姿はどのようなものなのか、自分がハッピーと考える姿をイメージする

等を考えることができたなら、具体的な課題解決プランが思い浮かんでくると思えます。

2 社会事業モデルのアイデアを見出すために、グループ分けをして討議をする。

まず始めに、アイデアの創出をこれから始める、課題出しに悶々としている方々が各自の思いを述べ合い、意見を聞くことをします。

1) 1班：これから、アイデアを詰めていくグループ

(新谷・東島は2班に入り、いまの各人の思いを聞いた)

Aさん：環境関連分野に注目をしている、自分が考えたテーマが杉並区民に受け入れられるものなのか不安を持つ。テーマが技術的なものか、臨床的なものか、現場的(フ

ィールド)なものなのか等によりアプローチの方法や解決方法が違ってくる。

Bさん： 異世代交流の発言の場  
同世代同士の勉強の場  
お互いに、発言し意見を述べ合う、自分の考えを整理し自分発見をしていく場づくりをしたい

Cさん：自分が住んでいる地域の暮らしについて  
シニアの家庭が多く、二人、一人だけの生活が見えてくる。寂しいからといって家庭を開くことはない。多様な世代と付き合いが始まる仕掛けづくりを考えている。働く青年層との交流に目をつけている。

Dさん： 高校・大学の社会教育の分野を中心に、ビジネスマナーや進路相談等の相談事業ができないかを模索している。  
母を引き取り介護しながらの生活をおくっている。この体験から介護申請の情報や親の介護をする対処方法等の相談事業ができないか。

Eさん：自分が何をしたいのか、きっかけを求めて大人塾に参加している。関心はシニア問題と考えている。シニアは、自分たちより保守的で聞き分けが困難な方が多い。シニアに対応するには聞き学が重要と考えるので、シニアに関わった方々の意見を集約して小冊子「生き方、生活を変える指針づくり」を編集してみたい。

Fさん：独居シニアのクラブ的な集いや安否確認の仕組みづくりをしてみたい。

### 3 自分のアイデアを既に持っている方との意見交換

次に、既に事業計画のアイデアを持っている方の考えを聞いて、疑問点等をお互いに述べ合うことをします。事業の評価につながる時間となりますので、発表する人、聞く人は自由に意見交換をしてください。

その

Gさん：地域医療病院で診察を受ける課題を解く

課題：病院で診察を受ける際

順番待ちと診察時間の把握が困難

特にシニア層は健康上に理由で待つことが難しい

働く女性やペットがいる家庭は、診察時間に限りがある

対応するものは、訪問看護、ホームドクター制はあるが、サービスを受けられる

地域に制限がある

サービス内容として

地域医療病院の外部組織として安心・安全体制を役務とするサポーター組織をつくる

病院・医療担当者（医師・看護師等）の専門分野、人柄等を把握して情報として伝える

送迎・見届け・診察予約・訪問看護・受診内容の質問代行・処方箋処理等のサービスを行う

ペットの介護までサービス分野とする

手順

患者さんを自宅に迎えに行く 病院に連れて行く 診察受付代行 診察困難時間の把握 呼び出し時間までケアする（時間帯により自宅まで送り返す） 診察自宅まで連れ戻る フォロー情報を提供する 相談を継続する

解決すべき点

利用者のコスト負担を軽減するために、どこと提携すべきか

行政機関の地域包括支援センターで行っている地域福祉擁護事業の業務のソフト開発を行う

杉並区では社会福祉協議会が実施しているケア24（シニア総合相談室）が当たる

シニア介護サービス（介護用品・理髪美容・通院・配食・安否確認等）の中で自己負担であるために利用されていない業務に焦点を合わせる

自己負担が必要なサービスを、安価に提供できる分野に戦力を集中する

協賛会社の選定

- ・ハイヤー・タクシー会社 ・車椅子会社 ・ペットやさん ・理容・美容室
- ・地域医療病院紹介のフリーペーパー発行（広告費）
- ・ネットスーパー等物販業

その

Hさん：団塊世代と子育て卒業世代が共に交流する地域の場づくりをしたい

（自分を振り返りながら学ぶ場所づくり）

例示：シニアが料理を教える地元交流レストランの開設 情報交流の場となる

大人が楽しんでいる姿を広めて地域コミュニティーを作る

地産地の場(食材がどこから来ているのか地域に関心を払う)

多世代、多職のつながりを実現

子どもが、大人の生き方・仕事等を語り合える

## 子どもと大人のための遊びの開発

### 解決すべき課題

子ども・おとなを繋ぐ地域の組織はたくさんあるので、それらと協働するのか、独自の組織をつくるのか

#### 既存の組織の事例

P T A・青少年育成会・地域子育てネットワーク・杉並子育てサークルネット連絡会・母親クラブ連絡会・町会・商店街等

既存の組織でも同じ考えを持つ人々がいるので一緒にやるのか、各組織のコンサルタント的な立場で協力するのか、独自の組織でやるのか選択肢が三つある

既存の組織に、考え方・活動の仕方等を理解していただくために時間が必要

食教に絡めて、民間企業の支援を仰ぐやり方を研究することは、独自性・専門性・先駆性とも絡みおもしろい事業計画ができそう

( 備忘メモ作成 東島信明 )